

# 令和5年度 第1回甲賀市総合教育会議 議事録

1. 開催日時 令和5年8月10日（木）  
開 会 15時00分  
閉 会 16時35分
2. 開催場所 甲賀市役所4階 教育委員会室
3. 議 題 (1) 「新しい豊かさ」の創造に向けた社会教育の振興方針  
～甲賀市社会教育ビジョン～ (案)  
(2) アフターGIGAにおける教育DX構想  
～ICTを活用した甲賀市の教育について～
4. 出席委員 岩永裕貴市長、立岡秀寿教育長、松山顕子教育長職務代理者、  
野口喜代美委員、藤田浩二委員、池田吉希委員
5. 事務局員 (1) 教育委員会事務局  
教育部長、教育委員会事務局次長（総務・管理担当）、  
同次長（社会教育担当）、同次長（スポーツ担当）、  
同次長（学校教育担当）教育総務課長、学校教育課長、  
同課長補佐、社会教育スポーツ課長  
(2) 総合政策部  
総合政策部長、市長公室長、総合政策部次長（ICT推進担当）、  
政策推進課長、政策推進課長補佐、市民活動推進課長、  
情報政策課長補佐
6. 傍聴者 7名
7. 議事内容 別紙参照

《別紙・議事内容》

● 事務局

ただいまから、令和5年度第1回甲賀市総合教育会議を開会する。本日の総合教育会議は、「甲賀市総合教育会議設置要綱」第7条に基づき公開とする。ご異議ないか。

本日、傍聴については5名の受付を行った。それではまず始めに、甲賀市市民憲章を唱和するので、皆様、ご起立をお願いします。

【全員起立し甲賀市市民憲章唱和】

● 事務局

それでは、会議開会に当たり、本会議の議長でもある甲賀市長 岩永裕貴 がご挨拶を申し上げます。

● 岩永市長（開会あいさつ）

委員の皆様には、本日は大変ご多用にも関わらずご参集いただいたことに感謝を申し上げます。また、日頃から、教育分野に限らず、多岐にわたる視点から本市行政の推進にご理解、ご協力をいただいていることについて重ねてお礼申し上げます。

大変暑い日が続いている。消防からの報告によると、熱中症の救急搬送は昨年度の同時期に比べ増加している。特に75歳以上の後期高齢の皆様が、屋内で熱中症になるケースが相次いでいるという報告を受けており、また、新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同等の第5類へ移行されて間もなく3ヶ月が経とうとしているが、県内ではまだまだ多くの新規陽性者が確認されている状況でもある。

アフターコロナの活動が本格的に活発化をする中、児童生徒は夏休みを迎え、市内では多くのイベントも実施をいただいているところ。コロナ前の賑わいがようやく戻りつつあることを実感し、また地域の皆様方のご尽力に感謝をしている。

一方、この暑さの中でこどもの活動をいかに安全に実施するのか。この活動自体への保護者の皆様方の不安も様々であるため、教育委員会には特に大変な苦勞をいただいている。各学校においても、そうした保護者の皆様方にいかに寄り添っていくのかということについて苦勞いただいているという状況がある。

これまで以上にコロナ禍、そして熱中症など、市民の皆様の安心安全を守るための取り組みを進めるとともに、これまでのコロナ対策も一度しっかりと総括をし、甲賀市がこれから歩むべき新しい豊かさにつなげる取り組みに挑戦を積極的にして参りたい。

同時に、「こども真ん中社会の実現」を目指し本年4月に設置されたこども家庭庁や、各種施策を具体化し財源の確保を図るため、岸田総理を本部長とするこども未来戦略会議が設置されるなど、それ

らの取り組みの進捗によっては、今後、国の子育て支援が加速度的に推進されていくものと考えられる。市としても国の動向をしっかりと注視し、また、教育委員の皆様方とも連携を図りながら、未来を担う子どもたちが、心身ともに健やかに安心して夢を追い続けられるまちの実現に向け、全力で各種施策の推進に取り組んで参りたい。

本日の総合教育会議では、「新しい豊かさ」の創造に向けた社会教育の振興方針、そしてアフターGIGAにおける教育DX構想について、皆様方からご意見をいただきながら議論を深めて参りたい。忌憚なき活発なご議論をお願いしたい。

#### 【事務局：議題1 「新しい豊かさ」の創造に向けた社会教育の振興方針 資料説明】

##### ● 岩永市長

ただいまの説明にもあったとおり、市としての社会教育の方向性・役割を明確にする社会教育ビジョンの策定に当たり、社会教育の振興方針とともに地域コミュニティにおける公民館のあり方も見直す予定をしているところ。

市としても、これまで以上に教育委員会と市長部局との連携を強化する必要があると考えており、部局横断の仕組みにより取り組みを進めて参りたいと考えている。まずは、皆様より様々なご意見を本日は聞かせていただきたい。

ただいまの説明等についてご意見はいかがか。

##### ● 野口委員

何度も会議を持ちながら「新しい豊かさの創造」、それから「新しい地域社会」、そして「社会教育のあり方」等、色々と考えさせていただいた。5年間色々なことを疑問に思ってきたが、今の説明で自分の中では非常にクリアになった部分が多いと思う。

一つは市長部局と教育委員会との連携、それから協働、また社会教育における総括も統括監という形が配置されることとなった。それから、市立の公民館の中では色々な活動があるが、その中の社会教育コーディネーターと館長との関係性についても答えが出た。

それから、社会教育指導員の役割は夢の学習だけではなく、やはり色々な自治振興会の中でも社会教育事業があることから、そういうところも関係あるということが非常にクリアになった。

私自身はいろんな外国の人たちと一緒に多文化共生社会をつくるということで活動しているが、その中でずっと大事にしてきたのは、資料にも書かれているように、協働、連携、それから共生である。その活動の舞台は、多様な主体ということからも、大学であったり団体であったり、行政であったりと色々なところがあるが、一番はやはり個人、市民、どのところで市民がどうするのかというところが、一番思っているところです。

昨日、教育委員会の研修会があり、その中で話されていたのは、今日本の外国人比率は2.4%だが、2070年には10.8%、10人に1人になる、それはもう近い将来であるということ。

一番お伺いしたいことは、外国人市民も含め、どのようにすれば意欲的に社会教育が大事だと思うのか、心を動かすことができるか、市としてどのような対応をするのか、その熱意を聞きたい。

##### ● 池田委員

社会教育統括指導員という新しい役職の方が統括することとなっているが、公民館であれば、その

場完結型の学びの場という役割が今までであったように思う。今回のテーマが「開かれ、つながる」ということであれば、意識を変えていかないと、その機能の実効性や成果が上がるのかという点が非常に心配である。意識改革や統括指導員の方の具体的な携わり方を聞きたい。

● 藤田委員

地域差や温度差というものがあるとは思いますが、誰もが居心地の良いまちづくりを目指して取り組んでいくというゴールは見えているので、様々な地域の情報がうまく他の地域にも発信され広がることでベースのしっかりしたものになっていくのではないかと。情報の広がり部分をこれからどうしていくのか気になる。貴生川小学校のコミュニティスクールのような情報発信ができれば、甲賀市内には浸透していくのではないかと。

● 松山教育長職務代理者

それぞれの自治振興会によるまちづくりの方針も、おそらく自治振興会ごとに違うと思う。その地域の自治振興会が目指しているものと教育委員会が考えている社会教育とをどうつなげていくか、それぞれの地域の目指しているまちづくりをしっかりと洗い出す必要がある。また、市全体として、社会教育はどういうものかということを通認識することが大事。

● 事務局

自治振興会では、地域の課題を自らが解決しようと取り組みを進めている。これまでは、行政から公民館活動などを通じて学ぶ機会を提供することが中心であったが、自治振興会では自ら学びの場や機会を作っている。例えば、地域の防災や福祉など、様々な取り組みを自治振興会主体で行っている。市民自らが学びをもって地域の課題解決につながっていくように進めている。もちろん、外国人の方も、その地域の担い手になっていただけるよう、仕掛けをしていきたい。

自治振興会の取組の情報を広げていくことについては、自治振興会だよりによる共有や、地域マネージャーの連絡会議での情報共有を図っている。今後は、社会教育指導員と地域マネージャーが連携し、先進的な取組の情報共有なども図っていきたい。

● 事務局

地域の人材ということでは、まだまだ地域の中にすばらしい人材の方がおられる。教育委員会としても、1人でも多く、そういう方々と何らかの形で関わりを持ちながら、教育委員会の事業で活動をしていただけるよう取り組んでいきたい。

職員についても、もっと積極的に地域の市民活動を一緒になって行えるよう、教育委員会としても働きかけていきたい。

● 野口委員

協働ということが非常にこれから大きなテーマになってくると思う。やはり民間団体をどう見るかというのは大きい課題。様々な活動をされている団体があるので、ネットワークを大事にしながらか進めていくことが重要。

● 立岡教育長

学校の側面から申し上げると、コミュニティスクールと地域学校協働活動とを両輪で進めていくことになる。学校を核にした地域学校協働活動、そして、地域に開かれた学校という意味でのコミュニティ

スクール、学校ではその2つを両輪で進めることがなかなかできていない。社会教育統括指導員の役割には大きく期待したい。

また、地域学校協働活動が自治振興会と連携できていれば、子どもたちも地域の課題に積極的に関わり、そしてその解決をしていくという経験を積むことによって、ジュニアリーダーの育成などに繋がっていくのではないかと考える。

社会教育を進めるにはやはり人が非常に重要ではないかと思っている。最初は参加、そして参画、そして貢献という段階を子どもたちに経験させながら、リーダー育成、そして地域を担っていく子どもたちを育成していきたい。

#### ● 岩永市長

社会教育について本当に貴重なご意見を賜った。厚生労働省的に言えば共生社会の実現、文科省的に言えばコミュニティスクールや地域学校協働活動という言葉になる。総務省的には自治振興会制度みたいなもの。いわゆる国の各省庁が実施することを、しっかり地域のみなさまと共有ができてないと実現できない。共生社会の実現を学校も含めた中で進めていくことを大切しながら今後も取り組んでいけるよう、市長部局としても教育委員会と連携をさらに深めながら、社会教育について前に進めていきたい。

### 【事務局：議題2 アフターGIGAにおける教育DX構想 資料説明】

#### ● 池田委員

どの自治体も課題は人材の問題が多い。ICTを誰が進めるのかというところにつまずきがある。

#### ● 松山教育長職務代理者

スピードが重要。例えば「教育DXの目指す姿」である、「どこからでも」学べる、「誰とでも」学べる。コロナでオンラインが当たり前になり、「どこからでも」学べるのは当前。今まで学校に通うことができなかった子どもが、オンラインを使って学べるのは最低限であり、どれだけ深く学べるかという、その先に行くべき。時間がかかると思うが、ICTを活用した先に何をするのかを見据えて、進めていくのが必要ではないか。

#### ● 事務局

ご意見にあったように、スピード化をどのように展開していくのが今後のDXを進めるキーポイントになる。構想の目指す姿は大まかな部分のみを示しているので、詳細については、今後教育委員のみなさまとご相談させていただきながら進めていきたい。

#### ● 事務局

湖南省とは、令和3年からアナログ図書を含め相互利用してきた。県では主体的にデジタル図書を進めていて、ネットワークの構築はできている。外国にルーツを持つ子どもたちの母語の図書についても、引き続き県に訴えていく。

#### ● 立岡教育長

非常に良い環境を整備いただき、これからそれらを今まで以上にどう活用していくかというところ。今使っているシステムも使いこなしているというところまでまだ到達していない。使いこなした上での

成果や、その先にあるものは、使いこなさないとやはり見えてこない。そのための指導員や支援員を拡充し、組織体制の見直しなど、スピード感をもって進めていきたい。

また、DXを進めるうえでも、やはり読み書きという部分は非常に大事にしていきたいと思っている。

● 野口委員

ベネッセの教育総合研究所より、情報モラルのリスクを先生が感じているという統計、また、深く考えて問題を解くということが減っている、学習内容が定着しにくいというデータが出ている。甲賀市ではどうか。

● 事務局

ごく少数であるが正しい活用ができない子どもたちも中にはいる。情報モラルのリスクについては、今後減少する可能性よりも増加するという心配がある。指導のあり方、またガイドライン等も作り直していく必要があると考えている。

● 野口委員

一般的に「考える」「証明する」「書く」ことが大事だということであるが、そういった面ではどうか。

● 事務局

ICT機器いわゆるタブレット等はいくまでもツールの一つであることから、より効果的に授業や学習が進められる上で、ICT機器を使うという意識を忘れないように指導しているところ。

● 岩永市長

本日は大切な2点についてご意見いただいたところ、しっかりと共有をさせていただきながら、今後も委員の皆様方と本会議を通じ、これからの教育のあるべき姿共有をしながら、教育行政を推進していきたいというふうに考えている。引き続きのご協力をよろしくお願いを申し上げる。

● 立岡教育長（閉会あいさつ）

令和5年度第1回総合教育会議の閉会にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日の会議では『「新しい豊かさ」の創造に向けた社会教育の振興方針』及び『アフターGIGAにおける教育DX構想』、この2つの課題についてのご協議をいただいた。

1点目については、今後の社会教育の方向性について、市長部局の自治振興会によるまちづくりや、地域コミュニティの視点も交えて、委員の皆様から多様な意見をいただいた。今後、社会教育が地域住民の繋がりを深め、学びを地域課題の解決につなげていく、また、地域の魅力の拡充につなげていくために、学校も含めた地域住民の繋がりによる部分と、多様な活動をされている民間のグループと官民パートナーシップによる社会教育の推進、そして、持続可能な社会教育のシステムを構築していく必要があると考えた。市長部局と今まで以上に連携しながら新しい豊かさの創造に向けた社会教育を推進したい。

また、2点目については、教育におけるさらなるICTの利活用について、目指すべき方向性について説明し、様々な意見、ご提言をいただいた。

教育におけるICTの効果的な活用は、多様な子どもたちを誰1人取り残すことなく、一人一人に個別最適化された学びを育んでいく、その実現に繋がっていくということがおおいに期待されている。

今後、ICTが可能にしていく多様な学びを最大限に引き出して、甲賀市ならではの新たな学びを創

造していけたら、それは素晴らしいなというふうに考えたところ。

本日、本会議のテーマであった社会教育やICT教育はじめ本市が抱える様々な教育課題について、これからも市長と教育委員会とが十分に意思疎通を図り、本市の教育行政の進むべき方向をしっかりと議論し、また共有することが非常に重要である。

本日は熱心かつ慎重に協議をいただき、多くの意見を頂戴した。

これからも引き続き関係者の皆様のご指導、ご助言をお願い申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

● 事務局

以上をもって、第1回甲賀市総合教育会議を閉会とさせていただきます。

以上